

# ナイジェリアの WONCA に出席して

板東 浩（日本プライマリ・ケア学会広報委員会）

## はじめに

日本プライマリ・ケア学会は WONCA の一員であり、従来、アジア太平洋地域 WONCA にかかわってきている。京都 WONCA 国際会議（2005）が諸外国から高く評価されたのは、記憶に新しい。なお、WONCA は世界的に開催されており、著者は、欧州 WONCA でギリシアのコス島（2005）を、南米・イベリア地域 WONCA でアルゼンチンのブエノス・アイレス（2006）を訪問し、WONCA ならびに当地における PC 医療の現状を報告してきた。

このたび、アフリカ WONCA 会議が、2008年2月20～23日にナイジェリアの大都市カラバーで開催され、参加することができたので、報告したい。

## 1. WONCA の開会式

第8回国際 WONCA rural Health Conference は、カラバー空港から車で20分の場所にあるメトロポリタンホテルおよび国際会議場で開催された。正面玄関には、The 8th WONCA international と大きな垂れ幕が掲げられ、諸外国からの参加者を歓迎している。

今回のテーマは、「最前線の医療～自然および人間による災害から日常のケアまで～(Frontline Medicine: from man-made and natural disasters to daily care)」であった。そして、副題に、「地域におけるエイズの汎流行の衝撃」(the impact of HIV/AIDS; pandemic on rural populations) とある。いま、アフリカの医療で大きな問題で早急な対処が必要であると、さまざまな発表の中で、繰り返し述べられていたのが印象的に感じた。

実行委員会の責任者は、Ndifreke E. Udonwa 氏である(図1)。氏は、2月20日の開会式で次のように挨拶した。今回、アフリカの地における開催は、最近10年間で2回目であり、準備に最善を尽くしてきた。近年、アジアにおける地震や津波、カリブ海におけるハリケーンなど、地域を襲う災害がみられているため、熟慮した上で、



図1 開会式の様子。左端、司会者が Ndifreke E. Udonwa 氏。壇上、向かって左端が George Somers 教授

今回のテーマを選んだ。本会議では、教育講演やワークショップ、研究、研修など、広い視野でプログラムをアレンジしたので、充実した会議になるものと確信している、と述べた。

## 2. 災害への対応と教育

開会式に引き続いて、オーストラリアの George Somers 教授が招待講演を行った(図1)。題目は「災害に対する対応と役割～家庭医と医療関係者によるチーム対策 (Disaster response and the role, Family physician and other primary care workers in the team of first responders)」である。その中で、インドネシアが受けた巨大な津波にも触れた。Tsunami という言葉は日本語由来であり、災害に対する準備として、常々から住民への教育が非常に重要であることが、いまや世界の常識になりつつあるようだ。

夜は、Welcome Party で大いに盛り上がった。WONCA 会長の Chris van Weel 教授（オランダ）と同席し、歓談。毎週のように出張で世界を飛びまわっておられる氏は、2005年に京都で開催されたアジア太平洋地域 WONCA に来ていただいた際、京都の文化や Farewell Party に感銘を受けたという。日本 PC 学会の小松前会長や津田実行委員長によろしくとのことであった。



図2 WONCA 会長の Weed 教授による講義



図3 ACLS のワークショップ

### 3. 講演およびワークショップ

2月21日には、教育講演として、「地域医療の現状」「HIV AIDSによるナイジェリア地域の荒廃」「ナイジェリアの地域における災害の特徴」という3個のレクチャーが順次行われた。

引き続き、教育講演4では、WONCA会長のWeed教授が登壇、「日々のケア (Daily Care)」について、論を展開し、世界のWONCA会員の協力による今後の展開に、期待を寄せていた(図2)。

また、講演に並行して、ワークショップも開催されていた。ニーズが高い内容として advanced cardiac life support (ACLS) が選ばれたという。ACLSには大勢の医師が参集し、後半にはスペースがないほど熱気を帯びることに、ACLSの説明と実地研修は、英文で構成された内容をパワーポイントで伝え、実際に体験していく。本邦で行われているものと類似していた(図3)。

ポスター発表は10題あり、講演の合間の時間を有効に使い、自由に議論されていた(図4)。その中で、興味深かったものを紹介したい。ノルウェイのトロムソ大学のシュタイナート医師が、チベットに数ヶ月滞在し、当地の地域医療をレポートしたものである(図5)。テントや石で作られた住居で、生活を共にした。生存にはyakが不可欠であり、電気はなく、生活水も得がたい状況にある。医療面では消化器系の問題が24%、呼吸器系が17%、



図4 ポスター発表の様子

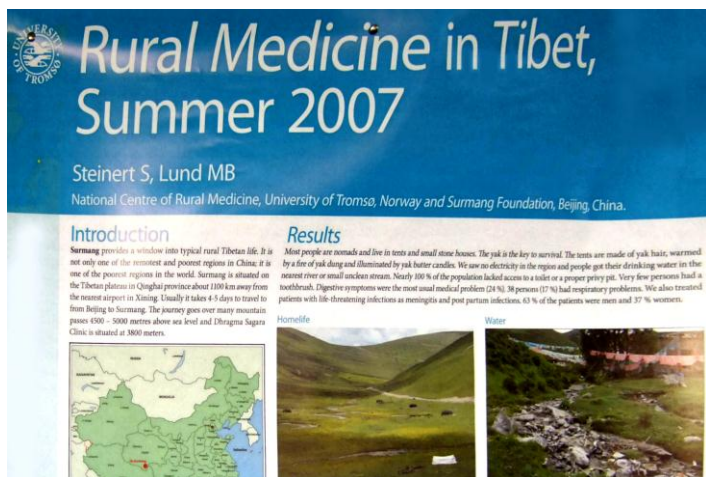


図5 チベット医療の発表

致死的な髄膜炎や産後の感染症なども治療し、患者は63%が男性、37%が女性であった。

なお、3日目には、会場を外に移して、実際の地域医療を視察するとともに、レクチャーが行われた。3日間を通じて、プログラムがよくorganizeされ、充実した内容であったと思う。

### おわりに

今回のWONCAでは、ナイジェリアのWONCA開催実行委員会の方々に、本当にお世話になり、よい経験をさせていただいたと思う。

通常、欧米の国際学会に参加する際には、スムーズにいろいろな手続きが進む。しかし、このたび、アフリカで有数の経済レベルにあるナイジェリアでの学会への参加において、さまざまな連絡やマネジメントが難しいことがわかった。頻回にわたりメールでプッシュさせていただき、対応していただいた関係者の方々に、御礼を申し上げたい。

今後、アフリカでは、南アフリカ共和国やナイジェリアが中心となって、プライマリ・ケア医療が発展していくことであろう。スムーズな展開と、諸外国との有機的なネットワークの構築に期待していきたい。